

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970102733
法人名	有限会社プランニングフォー
事業所名	古都の家 学園前
所在地	奈良市二名東町3750-2 (電話)0742-40-1315
評価機関名	なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成20年6月19日

【情報提供票より】(20年6月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤6人, 非常勤12人, 常勤換算11人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建て	1階	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	105,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○ 有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.1 歳	最低	60 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	奥村医院 西奈良中央病院 高の原中央病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小学校裏手の自然に囲まれた静かな環境に建ち、2階ベランダからの眺めはよく、小鳥のさえずりが聞こえてくる。管理者自身が育った馴染みの地域にグループホームを建てているので、自治会など地域とのネットワークがよく、「地域のメンバーと一緒に二名地区をよくしていこう」と管理者の思いは熱い。理念は「共に感じ、共に励まし、共に助け合う、そして、張りのある生活、人生を築きます」であり、職員は明るく、利用者の気持ちや考えを大切にされたケアに努めている。職員研修は充実しており、外部研修にも参加し、施設内でも月一回個々の職員が講師となり勉強会を実施し、職員の技術や意欲を引き出すことにつながっている。医療体制も手厚く、利用者は居室で読書したりレクリエーションに参加したり散歩したり、思い思いに過ごされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 全職員が集まる職員会議は行っていないが、毎日の申し送りやカンファレンスで、改善点について話し合っている。介護計画の急な見直しにも迅速に対応しており、駐車場だった庭に畑をつくり夏野菜を栽培し、利用者が外に出やすくなっている。職員の休憩室もでき、3年後は防災用のスプリンクラーも設置予定など、改善点は多い。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員7人とは毎日の申し送りの中で、パート職員には、その都度チェックに入ってもらい評価にとりこんでいる。全職員で現状を振り返り、問題点を拾い、利用者ニーズの変化に気づき、ケアの点検をして、日常の介護に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 自治会例会の後に運営推進会議を位置づけている。包括支援センター・自治会・家族などの意見を聞き、勉強会の実施・地域活動の参加・訪問看護の導入・医療連携を図るなど、運営推進会議を行うことで、サービスの質の向上につなげている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月一回個々の利用者の健康状態などを記入した「月間計画及び報告書」、ホーム便り「すまいる」、介護計画書、使用した小遣いの領収書を郵送している。苦情受付窓口は、重要事項説明書に記載し、意見・不満・苦情は、電話・メール・郵送で対応できるようにしている。家族面会時には声かけを多くし、気軽に話ができる雰囲気作りをしている。訪問看護導入時はアンケートをとり、家族の意見を聞いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の小中学校の運動会、文化祭に参加している。自治会役員もしており、福祉大会、草取りなどの行事に利用者と共に参加している。また本年度は当施設の庭を提供し、バーベキュー大会、餅つき大会が企画されている。ホーム便り「すまいる」を回覧して、ホームの様子を知らせている。

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に感じ、共に励まし、共に助け合う、そして、張りのある生活、人生を築きます」を理念に掲げている。「施設心得」の中に「利用者の生活を家族や地域の人々と共に築きあげること」を目標にし、地域密着型サービスとしての役割も目指している。今のところ理念の見直しは考えていない。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を施設内の玄関・事務所などに掲示している。全職員が集まる職員会議はないが、日々のカンファレンスや申し送りなどで具体的に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小中学校の運動会、文化祭に参加している。自治会役員もしており、福祉大会、草取りなどの行事に利用者と共に参加している。また本年度は当施設の庭を提供し、バーベキュー大会、餅つき大会が企画されている。ホーム便り「すまいる」を回覧して、ホームの様子を知らせている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員7人とは毎日の申し送りの中で、パート職員には、その都度チェックに入ってもらい評価にとりこんでいる。全職員で現状を振り返り、問題点を拾い、利用者ニーズの変化に気づき、ケアの点検をして、日常の介護に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会例会の後に運営推進会議を位置づけている。包括支援センター・自治会・家族などの意見を聞き、サービスの質の向上につなげている。	○	運営推進会議はどのようなスタイルが良いのか検討中である。今後、全国・県内の同事業所と検討していく中で、新たな取り組みを模索されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と事業所の問題点や運営に関する内容について積極的に話し合う関係がある。「認知症キャラバン」に参加しており、行政関係者から講演依頼があれば協力できる体制がある。	○	市担当者との連絡・話し合いの記録がない。記録に残すことがサービス向上になるとと思われる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回個々の利用者の健康状態などを記入した「月間計画及び報告書」、ホーム便り「すまいる」、介護計画書、使用した小遣いの領収書を郵送している。家族面会時には本人の生活状況、健康状態を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口は、重要事項説明書に記載し、意見・不満・苦情は、電話・メール・郵送で対応できるようにしている。家族面会時には声かけを多くし、気軽に話ができる雰囲気作りをしている。訪問看護導入時はアンケートをとり、家族の意見を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員退職時には引継ぎ期間を長く持ち、家族にも説明を行い、本人及び家族の不安軽減に努めている。職員配置はゆとりをもち、働きやすい環境づくりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市、全国グループホーム協会、地域包括支援センターの研修会などに参加している。施設内では月一回職員が講師となり勉強会を実施し、職員のモチベーションを上げている。参加できない職員は、後日直接伝えるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奈良県内のグループホームとの交流や県外のグループホームとの交流、地域包括支援センター主催の奈良市西部ネットワーク会や病院との交流を行い、ネットワークを構築している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と相談し、サービス利用のための見学や食事、おやつ作りなどに参加していただき、馴染みの関係をつくっていきけるよう工夫している。また、現在入居している方々の協力も得て、和やかな雰囲気を作るよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に感じ、共に励まし、共に助け合う」と理念に謳われており、日々の生活で利用者の思いや経験を大切にしている。住み込みで働きに来ていると思っておられる方には仕事仲間として接したり、畑の野菜作りを教わったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が自分で考え、自分で判断し、自分から行動してもらえるよう支援している。そのために利用者とのコミュニケーションを大切にして買物、ドライブなど希望に対応している。また、把握が困難な方には日々のかわりや家族などから情報収集し、引き出すよう努めている。しかしすべての希望やニーズに応えることは		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の利用者の状態はカードックスにまとめられており、情報共有されている。これまでの生活歴や現在の状況から、全体会議(利用者・家族・職員・関係者)や個々の話し合いを行った上、介護計画を作成している。本人の思いやニーズを取り入れ、介護計画に反映している。日々の、生活の中で行動や表情など非言語的ニーズもくみとり、対応している。	○	面会時でも良いので家族とのカンファレンスをしっかり行い、内容を記録し、介護計画に反映することが望まれる。また今までの生活が途切れないように、聞き取った内容・日々の気づき・情報などをアセスメントに書き足しまとめておく、なお有効に活用できると思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しは実施できている。カードックスを使って利用者の常態が把握できる工夫が行われており、変化に応じた介護計画の見直し作成に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院のデイケア希望者には、本人・家族と話し合い、柔軟に対応している。通院のための送迎もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する病院の通院介助を行い、結果は家族に報告している。検査受診時は家族に同伴の依頼をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応、終末期ケア対応指針」があり、契約時に説明している。24時間訪問看護や、医師との協力体制ができており、ターミナルケアの受入ができる。今までに一例の対応をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護については契約書に明記されており、職員に周知徹底されている。自尊心を傷つけないよう声かけに注意し、個々に合わせた対応に努めている。現在、居室ドアのスリットについて、居室内が見えないようふさぐかどうか検討している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞き、一日の予定を立て、柔軟に対応している。判断の困難な方は、コミュニケーションの中から希望を引き出せるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは利用者と共に行い、食事開始前にメニューの紹介をし、食事についてのコミュニケーションを図っている。職員は、外食、誕生会、イベントのときは一緒に食べるが、普段は持参の弁当を食べている。	○	食事は一番家庭的な暮らしの場面である。利用者の好みを聞きながら、職員も一緒に食べるなどの取り組みが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後2時から4時、週二回入浴しているが、週一回、週四回の人もいて、柔軟に対応している。一対一で安全にゆっくり入浴できるよう支援している。同性介助など個々の利用者に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯、料理、草花の手入れなど、利用者と共にコミュニケーションを図りながら行っている。壁飾りもテーマを決め、得意な方に手伝ってもらいながらしている。イベント、外出(映画・寿司など)は、希望を聞きながら毎月3, 4回実施し、毎月第2火曜は誕生会をしている。行きたいところへ行くと体も良く動き、生き生きした表情が		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の希望にそって、散歩、買物など外出支援を行っている。すぐ近くに公園もあり、玄関の鍵もかけていない。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夕方5時まで開けている。いつでも外へ出られるが、安全のためセンサーをつけて把握している。2階ベランダも自由に出入りでき、眺めもよく開放的である。居室の窓も開閉できるが、全盲の利用者の個室のみ家族の同意を得てストッパーをつけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作り、職員に周知徹底している。毎年7月と12月に避難訓練をしており、自治会にも協力依頼している。夜間は非常ベルを鳴らし、応援ができる体制をとっている。3年後にはスプリンクラーをつける予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「あじみや」の栄養士による献立、食材を利用している。栄養摂取量や水分量はチェックしており、一人ひとりの状態に応じて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂、リビング、廊下も広く、明るく、静かな環境である。壁には利用者と共に作った季節の飾り付けがあり、ベランダから自然が見渡せ、鳥の鳴き声も聞こえる。トイレは各階に二ヶ所あり、スペースも広く、一日二回掃除を行って快適に過ごせるよう努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持ち込みは自由で、ベッドやタンス、写真などなじみのものを持ち込んでおられる。居室で本を読み静かに過ごされる方、夜は施錠される方など思い思いに居心地よく過ごしておられる。		